

# 「指導と評価の一体化」のための

## 学習評価に関する参考資料（小学校 外国語・外国語活動）の活用ガイド

本ガイドは国立教育政策研究所の参考資料をもとに、先生方が授業を行うに当たり検討する、指導と評価の計画立案の参考となるよう、神奈川県教育委員会・市町村教育委員会の指導主事の協働で作成したものです。

### ○掲載項目（事例3、中学校事例5）

- 1 単元の目標と評価規準
- 2 指導と評価の計画
- 3 「話すこと[発表]」（知識・技能）（思考・判断・表現）の評価例
- 4 「話すこと[発表]」（主体的に学習に取り組む態度）の評価例
- 5 【参考1】「主体的に学習に取り組む態度」の評価（中学校事例より）
- 6 【参考2】「自己調整」を図ることができるようにするための指導（中学校事例より）

掲載事例以外の単元でも、本ガイドに掲載されたポイントを参考に、日々の学習指導と評価の充実に向けた授業改善に努めましょう！

### ○活用ガイドのポイント

- ・事例における単元の目標と指導と評価のつながりを詳しく解説（1、2）
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価の具体例について解説（3）
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価の具体例について解説（4）
- ・中学校の事例を参考に、「主体的に学習に取り組む態度」の基本的な考え方について解説（5、6）

# 小学校 外国語科 事例を通じた評価の具体例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料「事例3」 P65～76

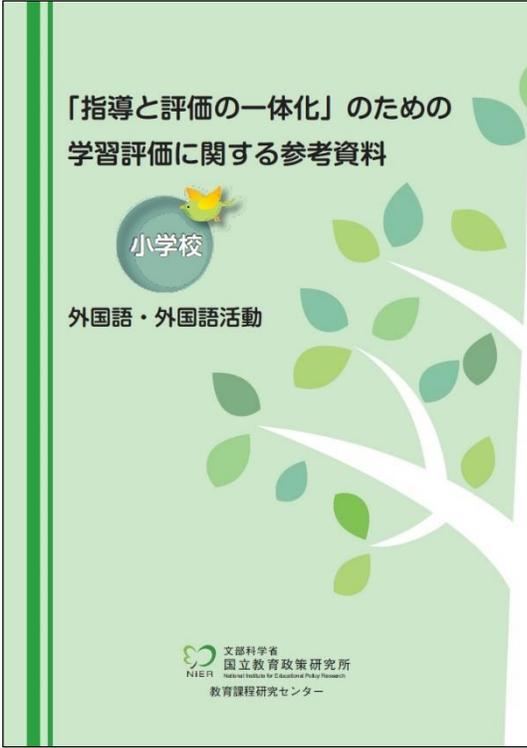
外国語科 事例3  
 キーワード 複数の単元を通じた「主体的に学習に取り組む態度」の評価、  
 「話すこと[発表]」「書くこと」における評価

単元名  
  
 We Can! 2 Unit 1  
 「This is ME!」  
 (第6学年)

関係する領域別目標  
 「聞くこと」  
 イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。  
 「話すこと[発表]」  
 イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。  
 「書くこと」  
 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

単元名  
  
 We Can! 2 Unit 2  
 「Welcome to Japan.」  
 (第6学年)

関係する領域別目標  
 「聞くこと」  
 ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。  
 「話すこと[発表]」  
 ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。  
 「書くこと」  
 イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

# 1 単元の目標と評価規準

この事例では、「主体的に学習に取り組む態度」を2つの単元を通して見取るため、Unit 1とUnit 2の両単元について示している。

## Unit 1 「This is ME!」

### ■目標

自分のことをよく分かってもらったり相手のことをよく分かたりするために、好きなものやこと、できることなど、自己紹介に関することについて具体的な情報を聞き取ったり、伝えようとする内容を整理した上で、話したりすることができる。また、自己紹介に関することについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

※本単元における「聞くこと」については、目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。

### ■評価規準(紙面の都合上、「話すこと[発表]」についてのみ示す)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと「発表」	<p>&lt;知識&gt; 自己紹介に関する語句や、I (don't) like ~. I can/can't ~. My birthday is ~. I'm ~. の表現について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 好きなものやこと、できることなど、自己紹介に関することについて、話す技能を身に付けている。</p>	<p>自分のことをよく分かってもらうために、好きなものやこと、できることなど、自己紹介に関することについて、話している。</p>	<p>本単元の評価規準は、「自分のことをよく分かってもらうために、好きなものやこと、できることなど、自己紹介に関することについて、話そうとしている。」となるが、<u>次単元と合わせて、記録に残す評価を行う。</u></p>

「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、長期的な視点で評価することも考えられることから、この事例では、2単元を通して記録に残す評価を行う。

## Unit 2 「Welcome to Japan.」

## ■目標

日本文化についてよく知ったり相手に日本文化についてよく知ってもらったりするために、日本の行事や食べ物などについての短い話を聞いて概要を捉えたり、自分が好きな日本文化などについて、伝えようとする内容を整理した上で、話したりすることができる。また、自分が好きな日本文化などについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

※本單元における「聞くこと」については、目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。

## ■評価規準(紙面の都合上、「話すこと[発表]」についてのみ示す)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと「発表」	<p>&lt;知識&gt; 日本の行事や食べ物、日本文化等に関する語句, We have ~. It' s ~. You can enjoy ~. の表現について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 日本の行事や食べ物、自分の好きな日本文化などについて、日本の行事や食べ物、日本文化等に関する語句, We have ~. It' s ~. You can enjoy ~. などを用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。</p>	<p>相手によりよく分かってもらえるように、日本の行事や食べ物、自分の好きな日本文化などについて、考えや気持ちなどを<u>話し</u>ている。</p> <p>~話している。</p>	<p>相手によりよく分かってもらえるように、日本の行事や食べ物、自分の好きな日本文化などについて、考えや気持ちなどを<u>話そう</u>としている。</p> <p>~話そうとしている。</p>

文末のみが異なっている

**「主体的に学習に取り組む態度」は基本的に「思考・判断・表現」と一体的に評価**

## 2 指導と評価の計画 (Unit 1: 8時間 / Unit 2: 8時間 計16時間)

### Unit 1 「This is ME!」

時	目標 (◆)	記録に残す評価
1	◆好きな動物などについて、聞いたり言ったりできる。	
2	◆自己紹介を聞き取ったり、好きなスポーツを含めて自分のことを話したりできる。	
3	◆自己紹介を聞き取ったり、好きな教科を含めて自分のことを話したりできる。	
4	◆自己紹介を聞き取ったり、誕生日を含めて自分のことを話したりできる。	
5	◆自分のことをよく分かってもらったり相手のことをよく分かたりするために、自己紹介を聞き取ったり、好きなものやことなどについて、伝えようとする内容を整理した上で、話したりできる。	話すこと [発表] (知・思)
6	◆自分のできることなどを含めて自分のことを話すことができる。	
7	◆自分のことをよく分かってもらうために、好きなものやこと、できることなど、自己紹介に関することについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書いたり、それをもとに話すことができたりする。	書くこと (知・思)
8	◆自分のことをよく分かってもらうために、好きなものやこと、できることなど、自己紹介に関することについて、伝えようとする内容を整理した上で、話すことができる。	話すこと [発表] (知・思)

単元の目標の実現を目指し、自己紹介ができるよう、**段階的に各時の目標や言語活動を設定**している。

本事例では「主体的に学習に取り組む態度」については、**次単元と合わせて**「記録に残す評価」を行う。

Unit 2 「Welcome to Japan.」

時	目標 (◆)	記録に残す評価
1	◆それぞれの行事でどんなことが楽しめるかを聞いたり言ったりすることができる。	
2	◆日本の行事について、まとまりのある話を聞いて、その概要を捉えたり、行われる季節とそれがどのような季節かについて言ったりすることができる。	
3	◆食べ物とその味覚などについて、まとまりのある話を聞いて、その概要を捉えたり、言ったりすることができる。	
4	◆日本の食べ物について、その味覚やその食べ物に関して言うことができる。	
5	◆好きな日本の遊びについて話すことができる。	
6	◆好きな日本の食べ物について話すことができる。	
7	◆相手によりよく分かってもらえるように、日本の行事や食べ物、自分の好きな日本文化について、例文を参考に、その名称や特徴などを表す語句を書くことができる。	書くこと (思・態)
8	◆相手によりよく分かってもらえるように、日本の行事や食べ物、自分の好きな日本文化について、考えや気持ちなどを話したり、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて、考えや気持ちなどを書いたりすることができる。	話すこと [発表] (知・思・態) 書くこと (知)

単元の目標の実現を目指し、日本文化等について表現できるよう、**段階的に各時の目標や言語活動を設定**している。

「主体的に学習に取り組む態度」については、**前単元での様子も含めて**評価の記録を残している。<sup>6</sup>

### 3 「話すこと[発表]」(知識・技能)(思考・判断・表現)の評価例(第8時)

#### Unit 1 「This is ME!」

#### ■評価場面【評価方法】

自分のことをよく分かってもらうために、相手を替えて複数回、好きなスポーツ、動物、教科、季節、食べ物や誕生日、できることなどを含めて、自己紹介をする。【行動観察】

#### ■評価例

児童1の発表

Hello. My name is ○○. I like baseball.

Do you like baseball? Baseball is fun.

I can swim well. I like sports.

I like cats. I have a brown cat. She is cute.

My birthday is April 2nd. When is your birthday?

Thank you.

- ・ I like ～. やDo you like ～?などの既習表現を正しく用いて、自分の考えや気持ちを話している。
  - ・ 自分の好きなものやことをよりよく伝えるために、話す順番を工夫したり、自ら相手に問いかけたり、情報を付加したりしながら発表をしている。
- 「知識・技能」(a) 「思考・判断・表現」(a)と評価

「知識・技能」…表現の正確さについて評価する

・ I like baseball. Do you like baseball? I can swim well. など、正確な表現ができている。

「思考・判断・表現」…表現の適切さについて評価する

・ 目標に照らし、自己紹介に関することについて、自分のことをよく分かってもらうために、適切な表現ができている。

## ■ 評価例

児童2の発表  
 Hello. My name is ○○.  
 I like P.E.  
 Do you like P.E?  
 I like cat. Do you like cat?  
 I can soccer.  
 Thank you.

「知識・技能」…**表現の正確さ**について評価する

「思考・判断・表現」…**表現の適切さ**について評価する

記録に残す評価を行うタイミングによって個別の状況に差が出るのが考えられ、**児童全員を見取ることが難しい場合もある**。そこで授業中の見取りに加え、**学期に1回程度のパフォーマンス評価において、総括的な評価を行うことも考えられる**。

I like cat.など、複数形のsが抜けていたりするが、これらは**「文法事項」と捉え、評価の対象とはしていない**。ただし、指導者は、児童のこのような誤りをそのままにするのではなく、You like cats. I like cats, too. などと正しい形で繰り返し、**児童がその違いに気付けるよう指導を行う**。

- ・ I like ~. やDo you like ~?などの既習表現をおおむね正しく用いて、自分の考えや気持ちを話している。
- ・ 自分について、よりよく伝えるという観点から、聞き手に問いかけたり、既習語句や表現を使ったりして自分の考えや気持ちをとおおむね伝えている。

→ 「知識・技能」(b) 「思考・判断・表現」(b)と評価

・ I like P.E. Do you like P.E?など、おおむね正確な表現ができているが、I can soccer.のような不正確な表現も一部に見られる。

・ 目標に照らし、自己紹介に関することについて、自分のことをよく分かってもらうために、おおむね適切な表現ができているが、話す順番や情報量等については、十分とまでは言えない。

## 4 「話すこと[発表]」(主体的に学習に取り組む態度)の評価例

Unit 1 「This is ME!」

Unit 2 「Welcome to Japan.」

### ■評価場面【評価方法】

Unit 1とUnit 2を通した2単元全体【行動観察】

### ■評価規準

相手によりよく分かってもらえるように、日本の行事や食べ物、自分の好きな日本文化などについて、考えや気持ちなどを話そうとしている。

### ■児童の様子と評価例

#### 児童1

Unit 1 第1時	Let's Watch and Think の内容について、教師からの質問に答えたりやり取りをしたりすることがうまくできず、次の活動のLet's Talk の一回目のペア活動ではうまく話せない様子だったが、 <u>二回目の活動の前に教師がゆっくりと話した英語をモデルとして、My name is Kota. I like cats.</u> と相手に伝えることができていた。
第2時以降	Let's Talk では、周りの友達や教師の支援を得ながら理解したLet's Watch and Think の内容を参考にしながら、好きなスポーツや誕生日などについて話すことができるようになってきた。
Unit 2 第8時	第7時に作ったポスターを見せながら、Do you like snow? We have snow festival in Hokkaido. You can see beautiful snow. You can eat delicious seafood, too.と話していた。

# 児童1 つづき

Unit 1 振り返りシート	最初は自分のことを話すのがとても難しかったけど、先生がゆっくりと話してくれて、音声を何度も聞かせてくれたので、少しずつ話せるようになってきたと思う。 <u>先生や英語のうまい伊藤さんの話していることも参考にしたい。</u>
Unit 2 振り返りシート	紹介するのは難しかったが、楽しそうに聞いてくれたのでよかった。 <u>雪祭りについて調べたので、サイモン先生からの質問にも答えられた。</u> 次は、すき焼きなどのおいしい和食についても紹介してみたいと思う。



Unit 1 と Unit 2 を通して自ら学習の目標をもち、試行錯誤しながら学習を進め、次の新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識及び技能を獲得したり思考、判断、表現しようとしたりしている。



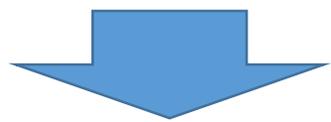
単元のはじめのころは、やり取りなどが思うようにできていない様子も見られたが、2単元を通しての言語活動の取組状況や、振り返りシートの記述などを参考にし、最終的に「十分に満足できる」状況(A)と判断

# 児童 2

Unit 1 第1時～第4時	Let's Talk では、My name is ～.と、自分の名前を言うことはできたが、その後の好きな動物やスポーツについて <u>話すことができない様子が見られた。</u>
第5時	Let's Talk において、ペアで質問したり答えたりすることが <u>うまくできていなかった。</u>



ALT から個別に教わる機会を設け、ALT の話す英語を何度も繰り返し言いながら練習したところ、少しずつ言えるようになる。



Unit 1 第8時	ALT の支援を得ながらではあるが、 <u>好きな動物やできること、誕生日などを話すことができた。</u>
Unit 2 第8時	第7時に作ったポスターを見せながら、Do you like sumo? We have a sumo stadium in Tokyo. You can see sumo wrestlers. They are very big.と、 <u>ALT の支援を得ながら話すことができた。</u>

各児童の単元の途中の取組状況を適切に捉え、改善を図っていくことが大切である。特に、「努力を要する」状況と見込まれる児童については、早めに対応し、指導していくことが必要である。

## 児童2 つづき

Unit 1 振り返りシート	最初は何をどう言えばいいのかわからなくてイライラしていたけど、サイモン先生がゆっくりと話してくれてたくさん練習してくれたので、楽しくなってきた。まだ難しいと思うこともあるけど、がんばりたい。
Unit 2 振り返りシート	英語で紹介するのは難しかった。自己紹介の時にサイモン先生とすもうについて話したことを覚えていて、少し話すことができた。サイモン先生がほめてくれたのでうれしかった。次は、何とか自分一人で話せるようになりたい。



Unit 1 と Unit 2 を通して自分の課題を認識し、支援を要する状態ではあるが徐々に改善をしながら、次の新たな学習につなげることができていた。



2単元を通しての言語活動の取組状況や、振り返りシートの記述などを参考にし、最終的に「おおむね満足できる」状況(B)と判断

# 【参考1】「主体的に学習に取り組む態度」の評価（中学校「事例5」より）

- ① 「主体的に学習に取り組む態度」は、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況进行评估する。
- ② 具体的には、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」は、日常的な話題や社会的な話題などについて、目的や場面、状況などなどに応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしようとしている状況进行评估する。
- ③ 「聞くこと」、「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて話されたり書かれたりする文章を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要、要点を捉えようとしている状況进行评估する。
- ④ 上記の側面と併せて、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。

- ①～③について
  - ・学年の評価規準は、外国語の目標に即して設定している
  - ・単元の評価規準では、授業中の言語活動やパフォーマンステスト等で実際に見取ることができる規準となるよう、「思考・判断・表現」と対の形にしている。
  - ・「思考・判断・表現」の評価規準には、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを必ず含むものとしている。

目的や  
場面、  
状況  
などに  
応じて

「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」→**表現の領域**  
適切な内容を表現しようとしている状況进行评估

「聞くこと」、「読むこと」→**理解の領域**  
 具体的な情報・概要など必要な情報を捉えようとしている状況进行评估

④について

- ・自己の学習を調整しようとする側面（以下「自己調整」という。）をどのように把握するか
- ・把握した結果を「主体的に学習に取り組む態度」の評価を総括する際にどのように勘案するか
- ・「自己調整」をできるようにするためにどのような指導が必要か

例)

【指示文】

英語の授業で、初めて会う ALT の先生に、自分のことをよく分かってもらえるよう、何を伝えたらよいかを考えて自己紹介してください。また、ALT の先生からの質問にできる限り詳しく答えてください。

Student A :

発話された英語は誤りが多かった（「知識・技能」＝「c」）。発話内容については、興味や関心のある事柄についてやり取りすることができておらず（「思考・判断・表現」＝「c」）、やり取りしようとする態度もみられなかった（「主体的に学習に取り組む態度」＝「c」）。

知識・技能	c
思考・判断・表現	c
主体的に学習に取り組む態度	c

【この生徒(Student A)の1学期末の観点別評価の総括】

	1 課の結果	2 課の結果	3 課の結果	パフォーマンステストの結果	話すこと [やり取り] の評価結果	他の領域の評価結果	1 学期の観点別評価
知	c	b	b	c	c	(a~c)	(A~C)
思	c	b	b	c	c	(a~c)	(A~C)
態	c	b	b	c	b	(a~c)	(A~C)

「**基本的には**一体的に評価する」ので、すべてを一体的に評価するのではない。  
この例において、「c」ではなく「b」として総括した理由については、次ページ参照。

「知識・技能」「思考・判断・表現」→「b」「c」が同数だが、パフォーマンステストの結果を重視し、「c」として総括  
「主体的に学習に取り組む態度」→「思考・判断・表現」と基本的には一体的に評価するという考え方により、「c」とすることが考えられるが、この例では「c」ではなく「b」としている。

## 【主体的に学習に取り組む態度を「c」ではなく「b」とした理由】

①以下の振り返りの記述内容から、自己調整を図ることができていると判断した。

(何を意識すれば言語活動に取り組むことができるようになるかを理解している記述例)

自己紹介ができるようになってきました。でも、今日のパフォーマンステストでは、ALTの〇〇先生の質問に答えられませんでした。聞かれていることが分からなかったときは質問すればよかったけれど、緊張して質問できませんでした。今度は、ちゃんと聞かれたことの意味を確認したいです。

②振り返りに記述されていること（質問されたことの意味を確認するなど）が、1課から3課の言語活動において、実際に態度となって表れていた。

このように、学期末等の総括の段階で、「b」と「c」のどちらもあり得る場合に限り、振り返りで記述している内容が、授業における言語活動への取組の様子にいくらかでも実際に表れていれば、「c」ではなく「b」と総括することも考えられる。なお、実際に態度に表出されていることが重要であることに鑑み、言語活動に粘り強く取り組むことができている（「a」または「b」）場合は、振り返りの記述内容によって評価を変えることはしない。

言語活動に粘り強く取り組むことができている場合は、振り返りの記述内容によって評価を変えることはしない。

→・授業における言語活動への実際の取組の様子が大切。

・仮に、振り返りの記述内容が不適切であったとしても、言語活動に粘り強く取り組んでいるのであれば、評価を変えることはしない。

上記を踏まえると、以下のような状況は考えにくい。

「思考・判断・表現」が「c」、「態度」が「a」→言語活動への取組以外の要素を加味？

「思考・判断・表現」が「a」、「態度」が「c」→生徒指導上の問題が影響？

振り返りの記述内容が、授業における言語活動の取組の様子に実際に表れていたことをもって、「b」としている。

→言語活動の取組の様子なので、練習（単語をひたすら書く、基本文を暗唱するなど）の取組状況ではない。

→振り返りの記述内容のみで評価しない。

言語活動の取組の様子に実際に現れる必要があるため、

・挙手の回数

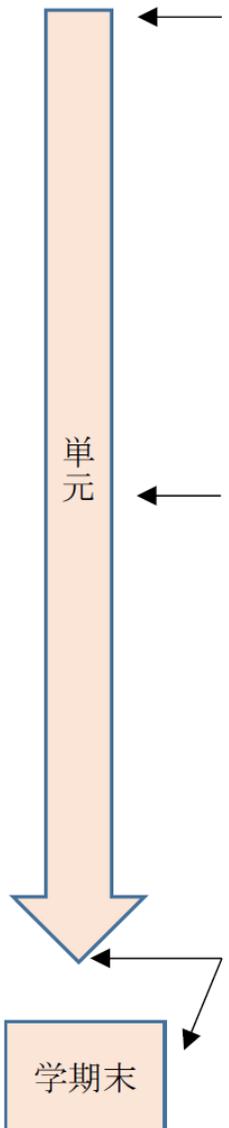
・提出物の期限を守れたか

・「まじめに頑張っている」というような、評価規準と関連しない、主観的な判断

などで「主体的に学習に取り組む態度」を評価しないことが重要。

# 【参考2】「自己調整」を図ることができるようにするための指導 (中学校「事例5」より)

(1) 単元等における指導例 (複数単元をまとめて一つの単元として指導する場合を含む)



← ■ 学習の開始時点：以下の視点から振り返りをさせる。

[表1]

視点	問いかけの具体例
目標設定	これからの学習で、さらにできるようになりたいことは何ですか。 例) 読んだことについて自分の考えを詳しく話せるようになりたい。
目標達成のための工夫	自己目標を達成するために、何に努力したり意識したりすればよいですか。 例) 仲間が使った表現を真似する。

「目標設定」では、単元における目標を設定させる。したがって、当該単元の終末に取り組み言語活動がある程度イメージさせることは有効な手立ての一つになり得る。

← ■ 学習の途中段階：以下の指導を行う。

- ・ 振り返りをペア等で読み合わせ、「目標設定のための工夫」について学び合わせる。
- ・ 以下のような記述内容を紹介し考え方を広め、「がんばって話す」や「ちゃんと質問する」などの漠然とした目標しかもてない生徒の変容を促す。  
(例) いつも同じ表現になってしまうので、友達が使っている表現を聞いて真似する。  
相手が話したことについて質問するときは、Why?以外の質問をするようにする。
- ・ 生徒同士が、言語活動で自己目標についてアドバイスし合う機会をもつ。

← ■ 学習の終了及び学期末：[表1]の視点の他、以下の視点からの振り返りをさせる。

視点	問いかけの具体例
変容の自覚	これまでの学習でできるようになってきたことは何ですか。
変容の理由	なぜできるようになったと思いますか。

※上表及び[表1]で示した視点を、生徒の実態等に応じて選択したり組み合わせたりして活用する。

生徒の目標設定を明確にさせるためには、

- ・ 各単元の目標
- ・ 各学年の目標

などが明確である必要がある。

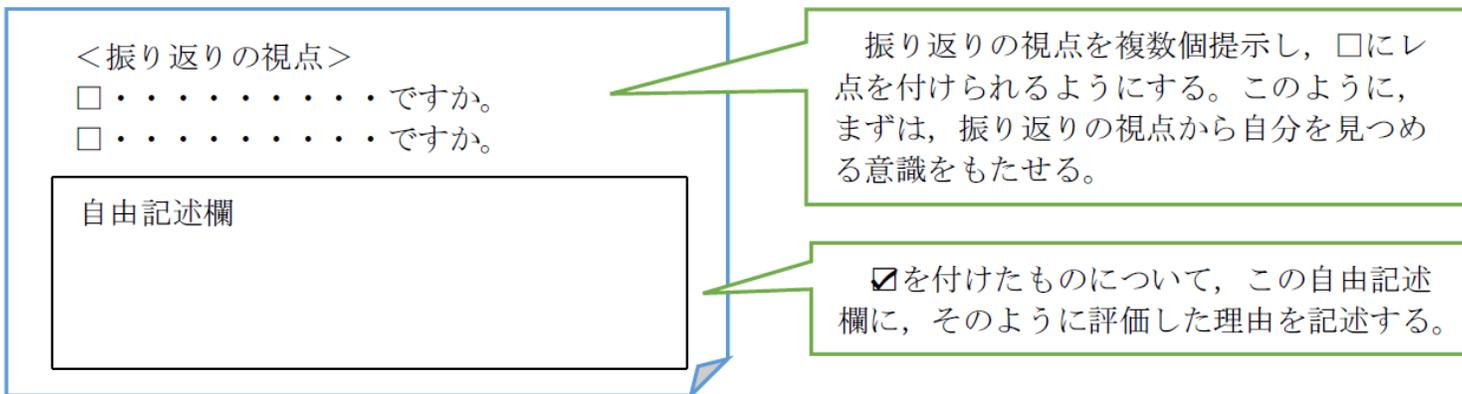
→ これらを五つの領域(「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「読むこと」、「書くこと」)別の目標で示し、**「CAN-DOリスト形式による学習到達目標」**を各学校で設定し、活用することが有効。

目標を実現するための**手立て**が明確になることで、漠然とした目標が具体的な目標になるような変容を促す。

「自己調整」を図ることができるようにするためには、**生徒が自ら「気付く」**ことができるようにするための工夫が有効。

(参考) 振り返りの書かせ方

振り返りを書かせる際は、最初から自由記述にするのではなく、例えば次のような様式で実施することも考えられる。□で振り返りの視点を設定して☑を入れさせることには、教師が見届けやすくなったり、同じ視点に☑を入れた生徒同士で交流したりする機会を設けやすくなったりするなどの利点が考えられる。



単元等の目標を明確にして、どのような力を身に付けさせたいのかを生徒と共有することが有効。

×「決まっている」から、授業の最後の5分は振り返りにする。  
○「振り返り」をさせることで、自己調整等につなげ、生徒の学習改善、教師の指導改善につなげる。

※振り返りが困難な生徒に対しては、以下の個別の指導が考えられる。

- ・何を書いてよいのか分からない生徒には、授業中や授業後に対話をしながら、できていることを伝えたり、生徒に質問したりして、より具体的に振り返りの視点をもたせたりする。
- ・どのように書いてよいのか分からない生徒には、何ができた/できなかったのか、その理由は何だと思えるかなど、振り返りで書く文章の構成について助言を行う。

「振り返りが不適切」＝「c」評価で終わらせるのではなく、状況に応じ個別の指導などを行い、目標を実現させるための「手立て」を講じることが重要。

「主体的に学習に取り組む態度」を「b」や「a」にすることで生徒を「救う」？  
→生徒を真に「救う」ためには、生徒の頑張りが、言語活動で少しでも表出されるように指導することが必要。  
「態度」だけを育成する/指導することは考えにくい。  
指導することは、あくまで「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」。

「態度」だけを取り出して評価しようとすると、「提出物の有無」等で評価しようという発想になりやすいので注意。